

## 第36回「放送文化基金賞」

財団法人放送文化基金（理事長 河竹 登志夫）では、第36回放送文化基金賞を次のとおり（詳細別紙）決定しました。

### 1 番組部門————— 17番組、5件

- (1) テレビドキュメンタリー番組…………… 5番組  
本賞—1 優秀賞—1 テレビドキュメンタリー番組賞—3
- (2) テレビドラマ番組…………… 4番組  
本賞—1 優秀賞—1 テレビドラマ番組賞—2
- (3) テレビエンターテインメント番組……… 4番組  
本賞—該当なし 優秀賞—1 テレビエンターテインメント番組賞—3
- (4) ラジオ番組…………… 4番組  
本賞—該当なし 優秀賞—2 ラジオ番組賞—2
- (5) 個別分野賞…………… 5件
  - 「演技賞」—— 2件
  - 「演出賞」—— 1件
  - 「脚本賞」—— 1件
  - 「美術賞」—— 1件

### 2 個人・グループ部門————— 8件

- (1) 放送文化…………… 4件
- (2) 放送技術…………… 4件

受賞番組、受賞者には、賞状、賞牌・トロフィー、賞金を贈呈します。

賞金は、番組部門・本賞—200万円、優秀賞—80万円、各番組賞—50万円、番組部門の個別分野賞—各20万円、個人・グループ部門—各50万円です。

なお、贈呈式は、平成22年7月1日(木) 午後4時30分から千代田放送会館ホール（東京都千代田区紀尾井町）で実施します。

お問い合わせ先 放送文化基金（担当 川副、甲斐）  
東京都渋谷区宇田川町41—1 共同ビル5F  
TEL(03)3464—3131  
<http://www.hbf.or.jp>

## 第36回「放送文化基金賞」受賞一覧

| 部 門        | 賞 (賞金)   | 受賞者                         | 番組名・業績  |  |
|------------|--|-----------------------------|---|--|
| 番 組 部 門    | テレビドキュメンタリー番組  | 本賞 (200万円)                  | NHK仙台放送局  | ハイビジョンふるさと発<br>嵐の気仙沼 ～港町の特別な一日～                            |
|            |  | 優秀賞 (80万円)                  | B S - T B S   | 唐招提寺平成の大改修 ～4000日の全記録～                                     |
|            |  | (50万円)                      | テムジン、NHKエンタープライズ、NHK                                  | B S 特集 民衆が語る中国・建国60年<br>第1章 新中国誕生 第2章 社会主義の格闘              |
|            |  | テレビドキュメンタリー番組賞 (50万円)       | NHK   | NHKスペシャル 証言ドキュメント 永田町・権力の興亡 第1回 1993-1995 “政権交代” 誕生と崩壊の舞台裏 |
|            | テレビドラマ番組   | 本賞 (200万円)                  | NHK大阪放送局  | 阪神・淡路大震災15年 特集ドラマ その街のこども                                  |
|            |  | 優秀賞 (80万円)                  | NHK広島放送局  | 広島発ドラマ 火の魚   |
|            |  | テレビドラマ番組賞 (50万円)            | 北海道テレビ放送  | HTBスペシャルドラマ ミエルヒ   |
|            |  | (50万円)                      | T B S テレビ   | 日曜劇場 J I N - 仁 -   |
|            | テレビエンターテインメント番組  | 本賞 (200万円)                  | 該当なし  |  |
|            |  | 優秀賞 (80万円)                  | T B S テレビ   | クリスマスの約束2009   |
|            |  | (50万円)                      | テレビユー福島   | 相馬野馬追 ～親子三代 夏の陣～   |
|            |  | テレビエンターテインメント番組賞 (50万円)     | テレビ朝日   | そうだったのか!池上彰の学べるニュース  |
|            | ラジオ番組  | (50万円)                      | NHK   | 連続人形活劇 新・三銃士   |
|            |  | 本賞 (200万円)                  | 該当なし  |  |
|            |  | 優秀賞 (80万円)                  | NHK大阪放送局  | F M シアター かわり目 ～父と娘の15年～                                    |
|            |  | (80万円)                      | 北海道放送   | ラジオ・ドキュメンタリー 逃げ得のしじま<br>～追跡・女性教員殺害犯の73年～                   |
|            |  | ラジオ番組賞 (50万円)               | エフエム沖縄  | ラジオ・ドキュメンタリー 国の特別天然記念物<br>イリオモテヤマネコ ～今語られる真実～              |
|            | 個別分野   | (50万円)                      | エフエムひらかた  | 幻のセレナーデ～シベリア夜曲ノート  |
|            |  | 演技賞 (20万円)                  | 橋爪 功  | 「かわり目 ～父と娘の15年～」の演技  |
|            |  | 演技賞 (20万円)                  | 尾野 真千子  | 「火の魚」の演技   |
| 演出賞 (20万円) |  | 黒崎 博                        | 「火の魚」の演出  |  |
| 脚本賞 (20万円) |  | 渡辺 あや                       | 「その街のこども」「火の魚」の脚本                                     |  |
| 個人・グループ部門  | 放送文化   | 美術賞 (20万円)                  | 井上 文太 神藤 恵<br>菅澤 敬一 山村 エナミ                            | 「新・三銃士」の美術   |
|            |  | (50万円)                      | 松平 定知 (フリーアナウンサー)                                     | 『その時歴史が動いた』のキャスターを9年務め、番組への多大な関心と支持を得た                     |
|            |  | (50万円)                      | 佐々木 聡 (山口放送ディレクター)                                    | 地域の人々の暮らしに密着した優れたテレビドキュメンタリー番組の制作                          |
|            |  | (50万円)                      | NHKスペシャル『マネー資本主義』制作グループ                               | 金融危機の真相を多角的かつスピーディーに検証したドキュメンタリーの取材・制作                     |
|            | 放送技術   | (50万円)                      | NHK教育テレビ『ピタゴラスイッチ』制作スタッフ                              | 仕掛けにみちたユニークな子ども番組を継続して制作してきた                               |
|            |  | (50万円)                      | デジタル極微小電力中継局送信機開発グループ<br>代表 中村 雅弘 (NHK)               | 地上デジタルテレビ放送用極微小電力中継局送信機の開発                                 |
|            |  | (50万円)                      | 新方式デジタルFPU用可搬ヘリコプター追尾システム開発チーム<br>代表 牧野 鉄雄 (日本テレビ放送網) | 新方式デジタルFPU用可搬ヘリコプター追尾システムの開発                               |
|            |  | (50万円)                      | NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」制作技術チーム<br>代表 宮路 信広 (NHK)           | スペシャルドラマ「坂の上の雲」の制作手法を支えた技術開発と運用                            |
| (50万円)     | 120GHz帯番組素材伝送システム開発グループ 代表 中山 稔啓<br>(フジテレビジョン、NHK、NTT) | 120GHz帯を用いた大容量番組素材伝送システムの開発 |   |  |

\*番組部門の各番組賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第36回 放送文化基金賞

「番組部門」

— テレビドキュメンタリー番組 —

本 賞

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者 等   | 梗 概  | 選 考 理 由  |
|---|--|--|--|
| <p>ハイビジョンふるさと発 嵐の気仙沼～港町の特別な一日～</p> <p>平成 21. 10. 17 (土)</p> <p>NHK仙台放送局</p> | <p>制作統括 矢吹 寿秀<br/>ディレクター 久保 志穂<br/>飯田 健治<br/>山内 太郎<br/>河原 友絵<br/>青山 浩平<br/>編集 下山田昌敬<br/>音響効果 松川 晃<br/>音声 井口 大輔<br/>撮影 河瀨 敏<br/>新妻 喜幸<br/>語り 高橋 克実<br/>出演 齋藤ちか子<br/>(銭湯「亀の湯」営業)<br/>森 玲子<br/>(雑貨店主)</p> | <p>台風が三陸沖を北上するコースをたどった日、宮城県北部の漁港、気仙沼には、前夜から日本全国の漁船が避難のために続々と押し寄せ、かつてアジアと言われて港町に活気がよみがえる。</p> <p>午前9時、漁師たちは一斉に陸にあがる。まずは街の銭湯へ。「お帰りなさい」の声に迎えらる。港にある仕込み屋と呼ばれる日用雑貨店でも、集まった漁師たちに女主人も加わり、話がはずむ。かつお一本釣り漁船に乗り込むインドネシアの研修生たちは、魚市場の休憩室に集まり再会を喜ぶ。夜の街の賑わいは、繰り出した漁師たちで明け方まで続く。</p> <p>そして、台風一過の朝、岸壁を埋めつくした漁船は、「行ってらっしゃい」の声に送られて、次々と出港して行く。台風が運んできた港町の、たとえ短くても特別な一日だった。</p> | <p>台風の嵐を避難して一斉に気仙沼に入港し、陸にあがった漁師たちの、特別な一日を同時進行で丹念に追いかけた着眼点の良さ。厳しい漁をひと時忘れ、久しぶりに再会した漁師仲間、港の人たちとの人間味あふれるほのぼのとした交流、会話を淡々と撮らえ、かつての活気を取り戻した港町の短い一日を巧みに切り取った温かいドキュメンタリーになっている。</p> |

優 秀 賞

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者 等   | 梗 概  | 選 考 理 由  |
|---|--|--|--|
| <p>唐招提寺平成の大改修～4000日の全記録～</p> <p>平成 21. 11. 29 (日)</p> <p>BS-TBS</p> | <p>制作プロデューサー 竹内紀一郎<br/>高橋 正嘉<br/>高柳 等<br/>プロデューサー 金丸 尚志<br/>ディレクター 匂坂 緑里<br/>寺内 重孝<br/>構成 新貝 典子<br/>音響効果 荒川 誠人<br/>撮影 福田 功<br/>ナレーター 原田美枝子<br/>出演 村松 伸</p> | <p>奈良の世界遺産・唐招提寺金堂は、今のままでは大地震などに耐えられず倒れてしまう。そこで、創建以来初めてとなる大改修が始まった。1200年以上の風雪に耐えてきた天平時代の建築構造を知るのは容易ではなかった。平成の科学技術を駆使して、建物の構造を解析し、バラバラに解体された「瓦」「壁」「釘」「漆喰」などの部材は、徹底した調査が行われた。1000年後を見越した材料や工法の選択が、綿密に検討されるが、何度も難問に突き当たる。平成の匠たちが、古代の建造物を再生しようと戦い続けた4000日をカメラに記録した。</p> | <p>映像でなければ伝え残せないものを長期に渡って的確に記録し続けたという制作者の熱意と力量が示されている。</p> <p>4000日かけた記録が日本文化の奥の深さを再認識させている。</p> |

テレビドキュメンタリー番組賞

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者 等  | 梗概   | 選考理由  |
|---|---|--|---|
| <p>BS特集<br/>民衆が語る中国・建国60年<br/>第1章 新中国誕生<br/>第2章 社会主義の格闘</p> <p>平成 21. 10. 13 (火)<br/>10. 14 (水)</p> <p>テムジン<br/>NHKエンタープライズ<br/>NHK</p> | <p>ディレクター 鐘川 崇仁<br/>制作統括 北川 恵<br/>中西 利夫<br/>河本 哲也<br/>ナレーション 中條 誠子<br/>映像技術 小俣 孝行<br/>MA ミキサー 飯森 昌信<br/>音響効果 河原久美子<br/>編集 青木 観帆</p>   | <p>2009年10月1日、中国は建国60年を迎えた。めざましい経済発展のもと劇的な変貌を遂げた中国。しかし、そこには苦難と格闘の歴史がある。建国前後の激動の時代を民衆の証言で綴った2回シリーズ。「第1章 新中国誕生」では、内戦から建国直後までの緊迫した時代を記録。兵士、民衆は何を思い、どう生きたのか。新国家誕生の内幕と実像を描いた。「第2章 社会主義の格闘」では、1950年代に毛沢東が主導した経済や思想の大胆な改造による社会主義国家建設の時代を記録。時代の波にのまれていった人々の証言で中国の原点を見つめ、現在を問う。</p> | <p>現代中国の歴史の奔流に巻き込まれた、様々な立場の中国人たちから貴重な証言を集めている。人々が過去を語ることで中国の歴史の一断面が分かり、現在の中国の抱える問題をも問いかけている。</p>  |
| <p>NHKスペシャル<br/>証言ドキュメント<br/>永田町・権力の興亡<br/>第1回 1993-1995<br/>“政権交代”誕生と崩壊の舞台裏</p> <p>平成 21. 11. 1 (日)</p> <p>NHK</p>                     | <p>制作統括 梅岡 宏<br/>山口 太一<br/>ディレクター 池本 端<br/>取材 城本 勝<br/>菊池賢一郎<br/>撮影 平原 啓司<br/>照明 田中 孝宏<br/>音声 大山 正則<br/>山田 憲義<br/>音響効果 小野さおり<br/>映像デザイン 市原 寛教<br/>CG制作 高崎 太介<br/>編集 佐藤 公二<br/>語り 豊原謙二郎<br/>テーマ音楽 川井 憲次</p>  | <p>1993年に自民党を飛び出して、幾多の権力闘争の末、ついに政権交代を果たした民主党幹事長・小沢一郎氏。「55年体制」に代わって、現在の政権交代に至るまでの権力闘争を、小沢氏へのインタビューをはじめ、政界の中樞を担ってきた政治家たちの生々しい証言で綴っていく。</p> <p>3回シリーズの第1回は、「16年前の政権交代」。小沢氏が仕掛けた細川政権成立のドラマ。短命に終わった政権の内実。そして自民党・執念の政権奪還劇。細川政権・誕生と崩壊の10か月の政権攻防に迫っていく。</p>                        | <p>権力闘争の当事者の証言を積み上げ、政界の内部をストレートに描いている新しい手法の政治を扱う番組になっている。</p> <p>現在の政権交代に至るまでの権力闘争のありよう、騙し合い、感情劇、日本政治の内幕を奥深く見ることが出来た。</p>                 |
| <p>NHKスペシャル<br/>日本海軍 400時間<br/>の証言<br/>第二回 特攻 “やましき沈黙”</p> <p>平成 21. 8. 10 (月)</p> <p>NHK</p>   | <p>キャスター 小貫 武<br/>語り 柴田祐規子<br/>撮影 宝代 智夫<br/>照明 伊藤 尊之<br/>福田 晋<br/>音声 山田 憲義<br/>映像デザイン 岡部 務<br/>VFX 藤野 和也<br/>リサーチ 土門 稔<br/>コーディネーター 山田功次郎<br/>音響効果 小野さおり<br/>編集 小澤 良美<br/>取材 吉田 好克<br/>横井 秀信<br/>内山 拓<br/>ディレクター 右田 千代<br/>黛 岳郎<br/>制作統括 藤木 達弘<br/>高山 仁</p> | <p>戦後35年が経過した昭和55年から11年間、海軍の中樞「軍司令部」の元将校たちが中心となって密かに開いていた会合「海軍反省会」。戦後自らの責任を議論した肉声が400時間にわたるテープに記録されていた。</p> <p>「特攻」で亡くなった将兵は5千人以上。そのほとんどは20代の若者たちだった。決して命じてはいけない」と誰もが考えていたにも関わらず、戦況が悪化する中、誰もが物を言わない「沈黙」に陥り、組織全体で特攻作戦を進めていった。特攻作戦立案の実態と当時の関係者の関わりを明らかにしている。</p>             | <p>初めて見つけ出した「海軍反省会」の400時間にのぼる録音テープをてがかりに、特攻作戦の実態と責任を明らかにした。しかし、関係者に十分な反省はなされなかったことも浮かびあがらせている。</p> <p>組織と個人の意思決定と責任という現代の問題をも突きつけている。</p> |

**第36回 放送文化基金賞**  
**「番組部門」**  
**－ テレビドラマ番組 －**

**本 賞**

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者等  | 梗概  | 選考理由  |
|---|--|---|---|
| 阪神・淡路大震災 15<br>年 特集ドラマ<br>その街のこども<br><br>平成 22. 1. 17 (日)<br><br>NHK大阪放送局 | 制作統括 京田 光広<br>演出 井上 剛<br>脚本 渡辺 あや<br>音楽 大友 良英<br>歌 阿部芙蓉美<br>技術 坂本 忠雄<br>撮影 松宮 拓<br>照明 中村 正則<br>音声 渡辺 暁雄<br>映像 神戸 大樹<br>音響デザイン 山田 正幸<br>出演 森山 未来<br>佐藤江梨子<br>津田 寛治<br>白木 利周<br>ほか | 2010年1月16日、出張に向う勇治(森山未来)は、思わず新神戸駅で下車してしまう。実は勇治は、小学4年の時に神戸・灘で震災にあい、その年の冬に一家で東京に越した。<br>勇治は、同じ新幹線を降りた美夏(佐藤江梨子)と偶然知り合い、街に出る。美夏もまた、中学1年の時に震災にあい、2年後に東京に引っ越し、13年ぶりに神戸に来たのだった。ぽつりぽつりと震災の頃の話語り合う2人。気がつけば終電も過ぎ、「街を歩いてみたい」と言う美夏を彼女の祖母が住む御影まで送ることになる。神戸の街を一晩中、歩きながら、お互い胸にしまっていた震災への思いを語る。<br>明け方、東遊園地前の横断歩道に立つ2人。15年目の追悼のつどいに行く美夏。「やめとくわ今年は」と言って別れる勇治。それぞれ、心にかかっていたものを持ち越え、新たな一歩を踏み出して行く。 | 子供の頃、神戸で実際に震災にあった2人の俳優を実年齢で登場させ、震災15年目の朝を迎えるまでの一晩、神戸の街を歩く2人を徹底してカメラで追いかけて、どこまでが演技でどこまでが素だか分からない様なリアルなドラマになっている。<br>震災が心に残した傷をうまく語ることが出来ない若者の感情を行き届いた脚本で静かに描き、テレビドラマの新たな可能性を示した。 |

**優 秀 賞**

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者等   | 梗概  | 選考理由   |
|---|---|---|--|
| 広島発ドラマ<br>火の魚<br><br>平成 21. 7. 24 (金)<br><br>NHK広島放送局 | 原作 室生 犀星<br>脚本 渡辺 あや<br>制作統括 行成 博巳<br>演出 黒崎 博<br>音響効果 木村 充宏<br>編集 望月 博文<br>技術 大塚 豊<br>美術 土手内賢一<br>出演 原田 芳雄<br>尾野真千子<br>高田 聖子<br>岩松 了<br>笠松 伴助<br>青野 光臣<br>石飛 佑樹<br>河島 洋三<br>堂願優美子<br>藤山 喜子<br>池田美佐子<br>笹木 真之<br>藤山 千歳<br>末武 太<br>ほか | 瀬戸内海の小さな島で暮らす老作家・村田省三(原田芳雄)。この偏屈な老人のもとに、東京の出版社からクールな女性編集者・折見とち子(尾野真千子)が原稿を受け取りに来た。年齢も性別も違うがプロ同士。互いに譲らず丁々発止のバトルを繰り広げるが、老作家はいつしか編集者に恋心を抱くようになる。彼はあるとき、小説の装丁を燃えるような金魚の「魚拓」にしたいと思いつき、自分が飼っている金魚で魚拓を作ること折見に命じる。魚拓をとるには金魚を殺さなければならぬ。小さな命を巡り、2人の中にさざなみが立つ。<br>やがて村田は折見の“秘密”を知る。彼女の体は癌に侵されていた。孤独な老人と、時間を慈しむように生きる女性のひと夏の物語。 | 自分の死を自覚した男女が出会う物語。自分の作品が墮落してしまっていることに対する老作家の屈折は、全ての視聴者が理解できる苦しみではない。しかしその葛藤を深く表現している。<br>無駄のない、さりげないセリフが全てにリンクする脚本も素晴らしく、映像も美しい。総合的に非常に完成度が高く、ドラマの醍醐味を感じる作品になっている。 |

テレビドラマ番組賞

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者等   | 梗概  | 選考理由  |
|---|---|---|---|
| <p>HTBスペシャルドラマ<br/>ミエルヒ</p> <p>平成 21. 12. 19 (土)</p> <p>北海道テレビ放送</p>  | <p>脚本 青木 豪<br/>音楽 本間 昭光<br/>プロデューサー 嬉野 雅道<br/>福屋 涉</p> <p>演出 藤村 忠寿<br/>出演 安田 顕<br/>泉谷しげる<br/>風吹ジュン<br/>根岸 季衣<br/>渡辺いっけい<br/>藤村 俊二<br/>ほか</p>                                      | <p>石狩川でヤツメウナギ漁を細々と続ける初老の漁師・永島幸介（泉谷しげる）。そこへ10年間消息を絶っていた一人息子・剛（安田顕）が突然帰還する。剛は戻った理由を話したがらない。実は戦場カメラマンをしていたが、外地で負傷し、片目を失明していたのだ。</p> <p>剛は父親に、どうして食えない漁を続けるんだ、どうしてこんなに寂れた町に住み続けるんだ、と執拗に問いただす。</p> <p>他に行き場はなく、それぞれの場所でただ一生懸命に生きていくしかない。ゆっくりと穏やかな日常が繰り返される町で、居場所を見つける男の物語。</p>             | <p>疲弊した地方を舞台にすると、希望や再生の物語になりがちだが、この作品は北海道らしさをキープしながらも、ありのままを受け止めて生きるという新しいメッセージを発している点が高く評価できる。</p> <p>個性的な俳優陣の演技が自然で、真面目なテーマの中でおどけてみせる。それが逆に深いメッセージになっており、非常にテレビ的なドラマになっている。</p> |
| <p>日曜劇場<br/>J I N ー仁ー</p> <p>平成 21. 10. 11 (日)<br/>～12. 20 (日)<br/>〈全 11 回〉<br/>応募は第 1 回、第 5 回</p> <p>T B S テレビ</p> | <p>プロデューサー 石丸 彰彦<br/>津留 正明</p> <p>脚本 森下 佳子</p> <p>演出 平川雄一朗<br/>山室 大輔<br/>美術デザイナー 永田周太郎</p> <p>カメラ 須田 智弘<br/>出演 大沢たかお<br/>中谷 美紀<br/>綾瀬はるか<br/>小出 恵介<br/>武田 鉄矢<br/>内野 聖陽<br/>ほか</p> | <p>東都大学付属病院に当直だった南方 仁（大沢たかお）は救急で運ばれてきた身元不明の男を手術するのだが、術後に逃げ出そうとした男を捕まえようとして、階段から落ちて気絶してしまう。気がつくと、仁は、文久2年の幕末にタイムスリップしていた。さらにその時代には、自分の手術によって植物状態になってしまった婚約者・友永未来（中谷美紀）が、廓で、野風（のかぜ）という名でいた。</p> <p>仁は、現代の医療知識で幕末の人々の命を救っていく。また、坂本龍馬、緒方洪庵などといった幕末の英雄たちと交流を深め、いつしか幕末の、歴史の渦の中に巻き込まれていく。</p> | <p>現代の脳外科医が幕末にタイムスリップし、あらゆる妨害と果敢に立ち向かい、幕末の人々の命を救うという、エンターテインメント性の高いドラマになっている。</p> <p>閉塞的な時代のなかで、前向きに突破口を開こうとする姿を描くことで、世の中を勇気づける作品になっている。</p> <p>華やかで、飽きさせず、展開の面白さが成功した作品。</p>     |

**第36回 放送文化基金賞**  
**「番組部門」**  
**— テレビエンターテインメント番組 —**

**優 秀 賞**

| タイトル・放送日・制作  | スタッフ・出演者等  | 梗概  | 選考理由  |
|--|--|---|---|
| <p>クリスマスの約束<br/>2009</p> <p>平成 21. 12. 25(金)</p> <p>TBSテレビ</p> | <p>プロデューサー 阿部龍二郎<br/>服部 英司</p> <p>出演 小田和正を<br/>含む 21 組・<br/>34 人のアーティスト<br/>ほか</p> | <p>12月25日に放送された、幕張メッセイベントホールで開かれた小田和正の「クリスマスの約束2009」コンサート。毎年クリスマス・シーズンに届けるこの音楽特集番組は9年目を迎えた。今回は、21組34名のアーティストが一堂に会し、自分のワンコーラスを歌い、全員の歌をつなぐコンサートが実現した。同じ時代に音楽を作ってきた人たちがお互いを認め合うことでつながり、歌の力を信じ、それを見る人へも届けたい、と始まった企画だったが、初めのうち、小田の呼びかけに参加者はなかった。09年の夏、小田はたくさんのアーティストに手紙を書いた。集まった個性豊かなメンバーたちとの本音の討論、放送局側スタッフとのすれ違い。最後には、34人の歌手がステージで『22分50秒』と小田が名付けた歌を熱唱することができた。</p> | <p>音楽が個人を分断する道具となってしまったと言われる今の時代に、音楽を通して共有する場をどう作り上げていくか、番組が目指して9年目。それは長い試行を経て、今回の感動的なシーンへと結実していった。</p> <p>音楽の力、テレビの力をあらためて感じさせる作品になっている。</p> |

**テレビエンターテインメント番組賞**

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者等  | 梗概   | 選考理由   |
|---|--|--|--|
| <p>相馬野馬追<br/>～親子三代 夏の陣</p> <p>平成 21. 8. 29 (土)</p> <p>テレビユー福島</p> | <p>制作統括 藤間 寿朗<br/>プロデューサー 渡辺 孝之<br/>ディレクター 櫛田 良一<br/>カメラ・編集 新毛 祐士<br/>音声 志賀 啓之<br/>構成 菊池 豊<br/>ナレーション 津野まさい<br/>MA 久坂 恵紹<br/>出演 今田 賢一<br/>今田 為夫<br/>今田 淳史<br/>ほか</p> | <p>およそ1100年の伝統を持つ国の重要無形文化財である「相馬野馬追(ウマノマイ)」。平将門が野に馬を放ち、軍事訓練をしたのが始まりという武士の祭。7月には全国から3万人もの観客が訪れる。なかでも花形といわれる甲冑競馬。20キロもの鎧をつけた騎手が競い合う勇壮な競馬だ。21年春、相馬市の中学1年生・今田淳史君が初めてこの競馬に挑んだ。父・賢一さん、祖父の為夫さんも祭りの代々の名手。当日の朝、馬に乗った淳史君は曾祖母の唄に送られて家を出発。親から子へ、子から孫へ。祭りへの熱い思いが受け継がれ、家族の絆を深めていく。</p> | <p>競馬に初挑戦した少年が優勝、父親が「神旗争奪戦」で旗を獲るなど、親子三代の活躍ぶりが番組を一層面白くした。勇壮な祭りや相馬の人びとを美しい映像と音で描き、さわやかな気持ちのよい楽しめる番組になっている。</p> |

テレビエンターテインメント番組賞

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者 等   | 梗概   | 選考理由   |
|---|--|--|--|
| <p>そうだったのか！池上彰の学べるニュース</p> <p>平成 22. 2. 13 (土)</p> <p>テレビ朝日</p>                                 | <p>ゼネラルプロデューサー 山下 浩司<br/>                     演出・プロデューサー 保坂 広司<br/>                     編成 渡辺 実<br/>                     プロデューサー 丹羽 敦子<br/>                     寺田 伸也<br/>                     中井 洋次<br/>                     ディレクター 郷力 大也<br/>                     濱崎 賢一<br/>                     出演 池上 彰<br/>                     劇団ひとり<br/>                     土田 晃之<br/>                     ほか</p>   | <p>毎日見ているニュースの、知っているようで知らない言葉、理解できない背景を、ニュース解説者の池上彰が平易な言葉で一から説明する。</p> <p>視聴者にわかりやすく、理解を得られやすくするための工夫をし、模型やパネル、モニターなどの説明材料を使用。池上彰とゲストのタレントが質疑応答を繰り返すスタイルをとりながら、視聴者の素朴な疑問を解決していく。</p>                             | <p>幅広い取材力、無駄のない段取りと構成、そして池上彰氏の巧みなしゃべりで「ニュースをまじめにバラエティーにする」という、これまでにない新しい番組づくりに挑戦している。</p> <p>ゴールデンタイムの楽しめるエンターテインメント番組になっている。</p>  |
| <p>連続人形活劇 新・三銃士</p> <p>平成 21. 10. 12～<br/>22. 5. 28&lt;全 40 話&gt;<br/>応募は、第 21 話</p> <p>NHK</p> | <p>原作 アleksandr・デュマ<br/>                     脚色 三谷 幸喜<br/>                     キャラクターデザイン 井上 文太<br/>                     人形指導 佐藤 東<br/>                     人形製作 菅澤 敬一<br/>                     衣装製作 山村エナミ<br/>                     美術 神藤 恵<br/>                     技術 増田 徹<br/>                     音響効果 片平 洋資<br/>                     演出 杓瀬 真実<br/>                     制作統括 紀平 延久<br/>                     語り 田中 裕二<br/>                     (爆笑問題)<br/>                     声の出演 江原 正士<br/>                     戸田 恵子<br/>                     ほか<br/>                     人形操演 スタジオ・ノーウェアの皆さん</p> | <p>Aleksandr・デュマの世界的名著「三銃士」を、三谷幸喜がスリルと感動に満ちた物語に脚色し、連続人形劇で描く。</p> <p>主人公のダルタニアンは、亡き父の「銃士になって国王をお守りするのだ」と言う遺言を胸に、銃士になるべくパリへ上京、アトス、ポルトス、アラミスの伝説の三銃士と出会う。政治を操り、陰謀を張り巡らせるリシュリュー枢機卿やミステリアスな女スパイからフランス王妃を守る姿を描いている。</p> | <p>教育テレビ 50 周年を機にNHKが制作した 14 年ぶりの人形劇。人形の表現力豊かな造形美と奥行きのある背景のセットなどの美術、質の高い映像によって、独特の人形劇の世界を作り出している。</p> <p>アニメやCG技術が向上、普及する中、懐かしい人形劇を復活させただけでなく、デジタル時代にふさわしい、新しい手づくりの人形劇に挑戦している。</p> |

**第36回 放送文化基金賞**  
**「番組部門」**  
**— ラジオ番組 —**

**優 秀 賞**

| タイトル・放送日・制作  | スタッフ・出演者 等  | 梗 概   | 選 考 理 由  |
|--|---|---|--|
| FMシアター<br>かわり目～父と娘の<br>15年～<br><br>平成 22. 1. 16 (土)<br><br>NHK大阪放送局                      | 作 山本 雄史<br>音楽 妹尾 武<br>制作統括 青木 信也<br>技術 福井 清春<br>音響効果 吉田 直矢<br>演出 石塚 嘉<br>出演 橋爪 功<br>木南 晴夏<br>桂 吉弥<br>片岡 静香<br>小阪 風真<br>中山 心 | 阪神大震災で妻を失った吾郎(橋爪功)は、15年経った今も、妻の死にまだ向き合うことができない。一人娘の晴美(木南晴夏)もまた、母の死を語ることはない。互いを思いやりながらも、大事な話ができない父と娘……。ところが晴美が妊娠し、シングルマザーになると言い出したことから事情は一変、お腹の子の父親も加わって大騒ぎとなる。やがて晴美の本音が漏れ始め——。互いの心の奥底をさらけ出し、吾郎と晴美は新しい家族のつながりに希望を抱いていく。奇しくも震災15年目前日の1月16日。それは、この父娘にとって、過去を乗り越え、これまで目を向けることのなかった「明日」を考え始める“かわり目”となった。 | 時宜にかなったテーマを取り上げて、細かく無駄なく作り込まれた脚本、橋爪功氏をはじめとする出演者の好演で最後まで耳を離せないドラマになっている。震災で傷ついた家族が再生していく様を関西らしいユーモアを交えて描いており、涙あり笑いありの極上の人情喜劇になっている。 |
| ラジオ・ドキュメン<br>タリー<br>逃げ得のしじま<br>～追跡・女性教員殺<br>害犯の73年～<br><br>平成 21. 5. 30 (日)<br><br>北海道放送 | プロデューサー 油谷 弘洋<br>ディレクター 杉田 嘉裕<br>加藤 健司<br>ナレーター 赤城 敏正<br>効果・整音 高橋 伸哉<br>技術 菅井 敬太<br>出演 石川 憲<br>(被害者の遺族)                     | 水田が広がるのどかな山里にその男は暮らしている。男はかつて同僚だった女性教員を殺害し、26年もの間遺体を隠し通した。ところが、その後、男は突然犯行を名乗り出る。しかし、時効の成立により、刑事責任に問われることなく、今、世間の目を逃れるようにして暮らしている。一度は告白しながらも動機や謝罪をいっさい口にせず、再び沈黙する男。なぜ、男は、犯行を告白したのか、男が抱える新たな恐れとは何か。結局“逃げ得”となるのか——。粘り強い取材で謎に包まれた事件の一角に切り込み、法律の壁の前に置き去りにされた遺族、罪から逃れられた加害者の心の内に迫ることで、時効制度が抱える矛盾を考察した。    | 深刻で深い事件を掘り起こし、それを深く掘り下げながら、29分という短い時間でまとめている。犯行を告白した男への直撃インタビューなど生々しい音声を織り交ぜながら、時効の壁に阻まれ罪を問われなかった犯人の現在の姿を描くことで、時効制度の問題点をあぶり出している。  |

ラジオ番組賞

| タイトル・放送日・制作   | スタッフ・出演者 等  | 梗概  | 選考理由  |
|---|---|---|---|
| <p>ラジオ・ドキュメンタリー<br/>国の特別天然記念物<br/>イリオモテヤマネコ<br/>～今語られる真実～</p> <p>平成 21. 12. 6 (日)</p> <p>エフエム沖縄</p> | <p>企画・構成 山川 悦史<br/>ナレーター 高 英子<br/>ディレクター 藤木 勇人<br/>音楽 カチンバ4<br/>効果音楽 山川 泰久<br/>技術AD 竹内 新悟<br/>出演 大嶺 英松<br/>高良 鉄夫<br/>池原 美枝<br/>伊澤 雅子<br/>岡村 マキ<br/>親富祖善繁<br/>津多 永光<br/>戸川 久美<br/>石垣 金星<br/>池田 卓</p> | <p>イリオモテヤマネコは、現在絶滅の恐れのある希少動物である。ディレクターの山川氏が、島の船浮の地を訪れた際、「イリオモテヤマネコ発見捕獲の地」という碑を見かけたことが番組づくりのきっかけとなった。</p> <p>山川氏は子供の頃親戚の生物学者である故・池原貞雄氏宅で、研究のため飼育していたイリオモテヤマネコを観察していたのだ。そのヤマネコと船浮で捕獲されたヤマネコは同一なのか？番組では、船浮で捕獲されたヤマネコの行方を追うと共に、ヤマネコと島民の関わり、語られなかった捕獲時の状況などを丹念に取材した。</p> | <p>イリオモテヤマネコが昔、害獣として食料にもなっていたという住民の話し、珍しい鳴き声など、音のみというラジオの力がふんだんに生かされ、イリオモテヤマネコの発見から捕獲までの事実を追いかける面白さがある。</p> <p>西表島というローカルな話題を取り上げながらも、リスナーひとりひとりに環境や自然保護の問題提起もしている。</p> |
| <p>幻のセレナーデ<br/>～シベリア夜曲ノート</p> <p>平成 21. 12. 29 (火)</p> <p>エフエムひらかた</p>                              | <p>企画・構成 岩田 隆清<br/>ディレクター 一本杉勇治<br/>西田 愛梨<br/>桜田 一希<br/>プロデューサー 平井 正世<br/>出演 堤 正晴<br/>高柴 留夫<br/>坂田 秋吉<br/>(以上、抑留体験者)<br/>松島トモ子</p>  | <p>絶望と恐怖が渦巻き、明日が見えないシベリアで唯一、抑留者を励まし、生きる希望を与えたのが『シベリア夜曲』だった。望郷の念がにじみ出た心の琴線に触れるメロディーと日本情緒あふれる歌詞が抑留者の心を捕らえたのだ。身近な存在のラジオに期待するリスナーからの要請により、作曲者を番組で捜すこと3か月。やっと本人が見つかった。その人は堤正晴さん86歳。「歴史の中に埋もれかかっているシベリア抑留という悲惨な重い事実と向き合い、命ある限りシベリア夜曲誕生の背景をしっかりと伝え続けたい」と語る。</p>            | <p>忘れ去られようとしている戦中戦後の貴重な記憶を音声で記録した作品。</p> <p>新聞の誤報がきっかけで存命であることが発覚した元シベリア抑留兵堤正晴氏の独白で構成されている。</p> <p>少ないスタッフと限られた予算内でリスナーに密着した地域エフエムラジオ局の特性を存分に生かした番組になっている。</p>          |

### 第36回放送文化基金賞

#### 「番組部門」— 個別分野 —

#### 演技賞

| 受賞者              | 対象番組                                     | 選考理由等   |
|------------------|--|---|
| はしづめ いさお<br>橋爪 功 | かわり目<br>～父と娘の15年～<br>(NHK大阪放送局)<br>ラジオ番組 | 15年前に大震災で妻を亡くし、男手一つで育てた娘から突然、妊娠を告白された父親の戸惑いと愛をやわらかく明るく演じている。声のみの演技で、聴く者に父と娘の小さな家庭を十分思い描かせた。 |

#### 演技賞

|                  |                               |  |
|------------------|-------------------------------|--|
| おの まちこ<br>尾野 真千子 | 火の魚<br>(NHK広島放送局)<br>テレビドラマ番組 | 誇張や嘘のない演技で、素直な集中とコントロールを示しているが、意識的な抑制とは違う不思議な余白を感じさせる。出色の個性を持つ女優である。 |
|------------------|-------------------------------|--|

#### 演出賞

|                  |                               |   |
|------------------|-------------------------------|---|
| くろさき ひろし<br>黒崎 博 | 火の魚<br>(NHK広島放送局)<br>テレビドラマ番組 | 主人公2人の演技をうまく引き出している。特に、視聴者全てには理解されないだろうと思われる老作家の葛藤を恐れずに表現した決断と勇気が、この作品の完成度を高めた。 |
|------------------|-------------------------------|---|

#### 脚本賞

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| わたなべ あや<br>渡辺 あや | その街のこども<br>(NHK大阪放送局)<br>火の魚<br>(NHK広島放送局)<br>テレビドラマ番組 | 『その街のこども』はさりげない会話の中に被災者の感情をうまく表現し、『火の魚』はセリフに無駄がなく、脚本の完成度が高い。この対照的な2作品の脚本を同時期に手がけている。 |
|------------------|--|--|

#### 美術賞

|  |                                   |  |
|--|-----------------------------------|--|
| いのうえ ぶんた<br>井上 文太<br>しんとう めぐみ<br>神藤 恵<br>すがさわ けいいち<br>菅澤 敬一<br>やまむら<br>山村エナミ | 新・三銃士<br>(NHK)<br>テレビエンターテインメント番組 | アニメやCGが全盛の今、これまでにない斬新な感覚の人形劇が出現した。その優れた総合美術デザインイメージの制作を高く評価する。 |
|--|-----------------------------------|--|

### 第36回放送文化基金賞

#### 「個人・グループ部門」

#### － 放送文化 －

| 受賞者                             | 業績                                     | 業績内容・選考理由   |
|---------------------------------|--|---|
| まつだいら さだとも<br>松平 定知 (フリーアナウンサー) | 『その時歴史が動いた』のキャスターを9年務め、番組への多大な関心と支持を得た | 2000年から09年まで『その時歴史は動いた』(NHK)のキャスターを務め、その格調高くも親しみやすい語り口で「歴史」の面白さを縦横に伝え、今日の歴史ブームの礎の一端を築いた。さらには歴史を題材としたテレビ番組に視聴者の広範な関心と支持を集めることにも多大な貢献を果たした。併せてNHK入局以来40年のアナウンサー、キャスターとしての優れた功績。 |

| 受賞者                           | 業績                                | 業績内容・選考理由   |
|-------------------------------|-----------------------------------|---|
| ささき あきら<br>佐々木 聡 (山口放送ディレクター) | 地域の人々の暮らしに密着した優れたテレビドキュメンタリー番組の制作 | 地域に根ざした人々の暮らしを継続して見守りながら淡々と記録し、見る者一人一人に直接語りかけ深く考えさせる優れたドキュメンタリーを制作し、『NNNドキュメント』(日本テレビ系列)や、民間放送教育協会『いきいき!夢キラリ』を通して全国へ発信してきた。主な作品に2009年『20ヘクタールの希望』、08年『山で最期を迎えたい』などがあり、受賞も多数。95年山口放送入社。今後が期待される。 |

| 受賞者                     | 業績                                     | 業績内容・選考理由   |
|-------------------------|--|---|
| NHKスペシャル『マネー資本主義』制作グループ | 金融危機の真相を多角的かつスピーディーに検証したドキュメンタリーの取材・制作 | 2008年秋に起きた世界的な金融危機の真相を、数多くのスクープインタビューによって多角的かつスピーディーに検証し、2009年の春から5回シリーズで世界に先駆けて放送した。1970年以降の規制緩和と金融資本の膨張を背景に次々と新手法の金融商品や取引手法を編み出し、金融の枠組み自体を変えていった金融界の構造を、沈黙してきた当事者の言葉から探り、巧みな演出でわかりやすく描いた。時宜を得た見応えのあるシリーズ。 |

| 受賞者                      | 業績                           | 業績内容・選考理由   |
|--------------------------|------------------------------|---|
| NHK教育テレビ『ピタゴラスイッチ』制作スタッフ | 仕掛けにみちたユニークな子ども番組を継続して制作してきた | 『ピタゴラスイッチ』は2002年からNHK教育テレビで放送している子ども番組で、4～6歳児を対象に、様々な「考え方」や「ものの見方」があることを示し、多角的な判断力を育てていくことをねらいとしている。ふだん何気なく暮らしている中に隠れている、不思議な構造や面白い考え方、法則を、独特のアニメキャラクターや装置、歌や体の動きなどを通して楽しく紹介している。今後も引き続き、良質な子ども番組の制作が期待される。 |

**第36回放送文化基金賞**  
**「個人・グループ部門」**  
**－ 放送技術 －**

| 受賞者(所属)  | 業績                         | 業績内容・選考理由  |
|--|----------------------------|--|
| デジタル極微小電力<br>中継局送信機開発グループ<br>代表 中村 雅弘<br><br>(NHK) | 地上デジタルテレビ放送用極微小電力中継局送信機の開発 | 地上デジタルテレビ放送用の中継局で、サービスエリアが数百世帯規模以下を対象とした、8波まで送信できる極微小電力送信機を小型・軽量化し、屋外設置可能なボックスタイプのものを開発した。このため鉄柱などに収容箱を容易に取り付けることができ、工事の簡略化、工事期間の短縮化、整備コストの低廉化を図ることができる。本装置は、全国に約500局所の建設が予定されており、デジタル化の促進に貢献している。 |

| 受賞者(所属)  | 業績                           | 業績内容・選考理由  |
|--|------------------------------|--|
| 新方式デジタルFPU用可搬ヘリコプター追尾システム開発チーム<br><br>代表 牧野 鉄雄<br><br>(日本テレビ放送網) | 新方式デジタルFPU用可搬ヘリコプター追尾システムの開発 | 映像本線受信用と追尾用とを兼用した一次放射器を備えたアンテナで、電波の到来方向を探索するヘリコプター追尾システムを開発した。これは映像デジタル変調信号の特定期間に限って一次放射器のビーム方向を制御し、得られる電界レベルから到来方向を算出して回転架台を制御している。従来方式に比べて、最大伝送距離を改善したほか、重量を80Kgと50%以上軽量化し、消費電力も30%低減化し、運用性が大幅に向上した。 |

| 受賞者(所属)  | 業績                              | 業績内容・選考理由  |
|--|---------------------------------|--|
| NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」制作技術チーム<br><br>代表 宮路 信広<br><br>(NHK) | スペシャルドラマ「坂の上の雲」の制作手法を支えた技術開発と運用 | 大型企画ドラマ「坂の上の雲」制作は、実写では不可能な世界を映像化するために、VFX技術の導入、動的3次元モデル技術の開発、撮像方式のプログレッシブ化、ユーザーガンマの使用などにより、映像表現領域の拡充を図った。また、演出をはじめスタッフ間のイメージ共有のために動画絵コンテを導入し、効率的な収録体制を実現した。HDTVの持つ優れた特性を存分に発揮する新たな制作手法の開拓と設備の運用形態を完成させた。 |

| 受賞者(所属)   | 業績                          | 業績内容・選考理由  |
|---|-----------------------------|--|
| 120GHz帯番組素材伝送システム開発グループ<br><br>代表 中山 稔啓<br><br>(フジテレビジョン、NHK、NTT) | 120GHz帯を用いた大容量番組素材伝送システムの開発 | 無線伝送用途としては未開拓であった120GHz帯で、安定に動作するデバイス(InP-HEMT)を新たに開発し、10Gbps級の大容量無線伝送システムを実現し、非圧縮スーパーハイビジョン信号を1Km超の距離で無線伝送することを世界で初めて成功させた。また非圧縮ハイビジョン信号では同時に6系統の無線伝送が可能であり、北京五輪でのフィールド検証、皆既日食や札幌雪祭りのパブリックビューイングでも使用した。 |